

1 目指す学校像

『入学して良かった、入学させて良かった学校になる』
 県内唯一の視覚障害特別支援学校として、これまで蓄積してきた視覚障害教育の専門性を活かし、視覚障害児・者を対象として、幼稚園、小学校、中学校、高等学校に準ずる教育、理療教育(あん摩・マッサージ・指圧・はり・きゅう)、重複する障害に応じた教育を行い、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために、必要な能力を身に付けた人格を育成することを目的とする。
 また、視覚障害教育のセンター的機能を発揮し、教育相談や地域支援に積極的に取り組み、県内の視覚障害教育の拠点となる。

2 本年度の教育目標

- (1) 一人一人が確かな学力と専門的技術を身に付け、社会参加と自立に向けて学ぶ意欲を持てる学校。
- (2) 一人一人の権利が尊重され、安心して学習・生活ができる環境が整った学校。
- (3) 地域のニーズに応える、視覚障害教育センター的機能を有する学校。
- (4) 教職員一人一人が教育公務員としての自覚と誇りを持ち、幼児児童生徒、保護者、地域から信頼される学校。

3 評価

(-)

項目	昨年度の課題	本年度の目標	目標達成のための手だて	自己評価	学校関係者評価	今後の課題	
授業実践力・指導力の向上	・視覚障害教育の専門性に加え、他障害(肢体不自由・知的)の専門性の向上 ・教科指導力の向上 ・公開授業参観体制 ・視覚障害領域の免許所取得100%	・公開授業、授業研究等を通して授業改善に努め、個々の教員と学校全体の授業実践力・指導力の向上 ・視覚障害領域の免許取得80%	・公開授業(研究)の実施 ・校内研修の実施 ・外部専門家との連携 ・全国、中四国地区盲学校教育研究大会への参加 ・認定講習会、通信教育の受講	・各教員が年2回、公開授業を実施した。(内1回は研究協議) ・特別支教育免許状取得のために13名(期限付講師を含む)が認定講習を受講 ・独立行政法人国立特別支援教育総合研究所免許状認定通信教育2名受講 ・現在、視覚領域免許状取得者 25/32人 取得率78.1% ・県外から講師を招聘し、専門性や重複障害者の指導支援について学んだ。 ・外部専門家(ORT、ST、OT、PT)を招聘し、個別の指導や研修会を実施し、授業改善等に取り組むことができた。	B	○平成29年度学校評価(生徒、保護者、教職員)9割以上が、良いとしている。 ○視覚障害教員免許の取得率向上に努めている。 ○県内唯一の視覚障害教育の専門性を蓄積し、後世に残してもらいたい。 ▲ICTをはじめ、視覚障害の方へ対する支援技術や支援機器は、日々改善、改良されています。新しい技術や機器など情報収集に努めていただきたい。	・視覚障害教育の専門性に加え、他障害(肢体不自由・知的)の専門性の向上 ・教科指導力の向上 ・公開授業参観体制 ・視覚障害領域の免許所取得100%
キャリア教育の推進と進路指導の充実	・幼稚園から高等部まで一貫した取組の推進 ・進路、実習先の開拓、重度重複生徒の進路保障 ・学校全体とした地域との交流の実施	発達段階に応じた系統的なキャリア教育の推進	・キャリア教育推進に向けた全体計画(各学部)の策定 ・職場実習、校外臨床実習等の実施 ・保護者への情報提供(小学部から)	・保護者への情報提供として、進路だより6号発行できた。 ・希望者のみであるが、四者面談を実施した。 ・ハローワーク面談の実施(高等部就労希望者) ・実力テストの実施(高等部普通科) ・外部講師によるビジネスマナーの実施(高等部) ・昨年度卒業生、過年度卒業生のアフターケアを延べ16回実施	B	○平成29年度学校評価が9割以上、良いとしている。 ▲重複障害、年齢層が広いなどの視覚障害以外への対応も必要となっている中、今後も児童生徒の個々のニーズに応じてキャリア教育の推進と進路指導の充実を図っていただきたい。	・幼稚園から高等部まで一貫した取組の推進及び情報提供 ・進路、実習先の開拓、重度重複生徒の進路保障 ・学校全体とした地域との交流の実施
センター的機能の充実	・幼児児童生徒の確保 ・教育相談体制の充実 ・視覚障害に対する認識(早期支援の重要性)の理解啓発 ・関係機関とのネットワークづくり	視覚障害教育のセンター的役割の充実	・地域の学校等への支援 ・短期生活支援講座の実施 ・視覚障害講座(体験会)の実施 ・関係機関への理解啓発活動の実施 ・サマースクールの実施	・相談件数(延べ数) 就学前139件、小学校142件、中学校19件、特別支援学校6件、成人44件 ・電話相談 延べ218件 ・乳幼児を対象とした「ひまわり教室」の利用者4名 ・短期生活支援講座4名、視覚障害講座(体験会)21名、サマースクール10名の参加 ・県内の眼科医会所属関係者に高知盲新聞を配布 ・ルミエールサロン出張機器展示に参加(室戸市、佐川町) ・高知福祉機器展(キッズバリアフリーフェスティバル)、ボランティア研修(高校生のため福祉体験スクール)への参加	B	○平成29年度学校評価(生徒、保護者、教職員)9割以上が、良いとしている。 ○関係機関と連携し、巡回相談など理解啓発に努めている。今後より一層の充実を望んでいます。	・幼児児童生徒の確保 ・教育相談体制の充実 ・視覚障害に対する認識(早期支援の重要性)の理解啓発 ・関係機関とのネットワークづくり
学校安全の推進	・引き続き訓練や施設点検等を実施し、教職員一人一人が自ら行動できるよう危機管理意識を向上させ、安全で安心できる学校にする。 ・防災学習室の活用 ・地域の避難訓練への参加	学校生活が安全で安心して送れる学校づくり	・避難訓練の実施 ・外部講師を招いた防災研修施設点検の実施 ・緊急時対応訓練の実施 ・感染予防対策の実施 ・スクールカウンセラーの活用 ・医ケア委員会を月1回実施 ・防災関連の研修会への参加	・消防等関係機関と連携した避難訓練を3回、簡易的な訓練を14回実施(寄宿舎を含む) ・高知大学防災推進センター客員教授 岡村先生を招いた防災研修を実施 ・衛生委員による施設点検を月に1回、全教職員による点検を学期に1回実施 ・緊急時対応として、AEDを活用した訓練を学期に1回実施 ・感染症(インフルエンザ)対応マニュアルの作成や県の感染症発生状況情報を情報提供し、感染予防に努めた。 ・月1回医ケア委員会を実施し、対象児童の状態について共通理解を図った。 ・スクールカウンセラー事業を活用し、心のケアに努めた。(年17回延べ127件) ・高知県高校生津波サミットに実践校として参加(生徒3名) ・地域の防災訓練に参加(城西中学校)	A	○十分に達成していると思われる。 ○平成29年度学校評価(生徒、保護者、教職員)9割以上が、良いとしている。 ○利便性を考慮した改築(今年度は玄関前)が行われている。 ○校内が視覚障害の方へ配慮された整理整頓され、環境の変化や危険箇所等への対応ができています。	・引き続き訓練や施設点検等を実施し、教職員一人一人が自ら行動できるよう危機管理意識を向上させ、安全で安心できる学校にする。 ・防災学習室の活用 ・地域の避難訓練への参加 ・福祉避難所開設に向けた取組
地域への情報発信	・引き続き、高知盲新聞を配布し、学校の様子や取り組みについて情報発信を行っている。	積極的な情報発信	・高知盲新聞の配布 ・行事のポスター貼り ・避難訓練や避難所運営訓練研修会の案内	・高知盲新聞を2回配布し、学校の様子や取り組みをお知らせした。 ・数は少なかったが、行事のポスターを作成し、地域に貼らせていただいた。 ・参加人数は少なかったが、避難訓練や研修会に参加をいただいた。 ・PTAの協力のもと、点字ブロックの日ののぼり旗を作成し、敷地内に設置し、アピールした。 ・地域対象の治療奉仕を実施した。	B	○平成29年度学校評価(生徒、保護者、教職員)9割以上が、良いとしている。 ○関係機関と連携し、巡回相談など理解啓発に努めている。今後より一層の充実を望んでいます。	・引き続き、高知盲新聞を配布し、学校の様子や取り組みについて情報発信を行っている。 ・地域と連携した防災訓練